

支部長挨拶



支部長 石井 正一 (昭和48年経済卒)

この7月の支部総会にて、コロナ禍でも支部活動を前向きに展開され、5年にわたり支部長を務められた加澤支部長の後を引き継ぎまして、新たに支部長に就任させていただきます。

今までは、副支部長として満足な活動も出来ず皆様にご迷惑をお掛けしてきており、加澤支部長からの就任依頼も何回もお断りしておりましたが、首都圏支部のこれからに向けて協力をしたいとお話で、皆様には大変なご迷惑をお掛けする事になると思いますが、支部長職を引き受けさせていただきます。

現在の内閣府の仕事が、私の10年来の夢を実現させる直前の段階に来ており、来年1月の南鳥島の排他的経済水域において、世界初の約6,000mの深海からのレアアース泥を船上に揚げる機器接続試験が成功いたしますと、愈々2027年2月からの本格的なレアアース泥の採鉱試験に突入いたします。そんな仕事を抱えてはおりますが、役員や会員の皆様方からのご理解、ご支援の下で、首都圏支部の活性化を少しでも図ってまいりたいと考えております。

また、全学の青松会につきましても、首都圏支部から積極的にサポートし、各地方支部との連携を強めながら、若年層の皆さんの一人でも多くのご参加をいただけるような同窓会活動を展開して参りたいと考えております。

これからも皆様方からの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。



新潟大学
人文・法・経済学部
同窓会
(略称) 青松会
首都圏支部 同窓会報

第39号 (2025年10月発行)



編集責任者 岡小夜子
事務局 成田 浩
〒179-0083
東京都練馬区平和台 3-1-7
コスモジュール氷川台 403号
e-mail: seishoshutoken@gmail.com



令和7年度総会報告
事務局長 成田 浩
(昭和58年経済卒)

6月14日に今回も東京県人会館で総会を開催いたしました。

来場参加者53名、WEB参加者4名と嬉しいことにコロナ禍明けでは最多の参加者となりました。

中でも平成卒の若手も18名にのぼり、なんと初めて令和卒の同窓生も参加していただき、女性も6名と非常にフレッシュな総会を開催することが出来ました。

若い方にお声がけいただいた先輩同窓生に感謝いたします。

また、ご来賓として松井人文学部部長と水田同窓会本部副会長にもご列席いただきました。

お忙しいところ新潟からお越しいただきまして誠にありがとうございます。

冒頭、加澤支部長の挨拶において、この総会にて支部長を退任し、石井正一さんに支部長を交代する旨の報告があり、その後の総会議事にて了承されました。

加澤さんにおかれましては長い間支部長として首都圏支部を牽引していただき誠に疲れさまでした。

石井新支部長におかれましては、現在重要な国家プロジェクトの中心として活躍され、大変ご多忙ながらも、支部長をお引き受けていただき誠にありがとうございます。

我々他の役員や理事も協力していきますので是非しくお願いいたします。

また、今回理事会の再編を行い、新理事6名含む36名の理事会として承認頂きました。

その後、昨年度の活動報告、今年度の活動計画や予算等の議事を終えました。

議事終了後、講演として、小説作家の飛騨俊吾さん(岡副支部長のご主人です)より、本人執筆の「トヤノドン」製作秘話等作家人生のお話をいただきました。

新潟を舞台にトヤノドンという怪物が暴れまわるこのSF小説は、新潟大学や身近な同窓生の名前も登場し、その製作話は大変興味深かったです。

今後飛騨様の更なる小説家としてのご活躍を応援しております。

総会終了後は同じ会場で懇親会を開催しました。

特に今回は若手や女性の参加者が多く、その方々の自己紹介もお聞きして、首都圏で活躍している後輩たちの姿を見ることが出来大変有意義でした。

若い方が多く、ケータリングの料理が1時間でもたずに無くなってしまうのは申し訳ありませんでした。

例年は平均年齢が高いので(失礼)料理も余りがちでしたので、いわゆる想定外でしたが、反省点でした。

また、参加者名簿や資料の誤謬等、事務面でも至らぬところがありましたことをお詫びいたします。

総会は同窓会の最大の重要な行事です。来年以降もこのように若い方、女性の方に継続してどんどん参加していただけるような魅力的な総会・懇親会を企画してきたいと思いを新たにいたしました。

●令和7年度 事業計画

	事業計画
4月12日(土)	第98回 青松ウォーキング 9名参加 隅田川 沿岸
5月10日(土)	第1回理事会 会場：東京新潟県人会館 304号室 25名参加 時間：15:00～16:30 終了後懇親会開催(同会場)
5月28日(水)	第21回 青松芝楽会 藤ヶ谷カントリークラブ 8名参加
6月14日(土)	第25回 総会 会場：東京新潟県人会館 2階会議室 時間：15:00～17:00 終了後懇親会開催(同会場)
9月27日(土)	第12回 首都圏五十嵐会 会場：東京新潟県人会館 2階会議室(予約済)
10月下旬	青松39号発行 2000部余
11月24日(月)	第2回理事会 会場：東京新潟県人会館 時間：15:00～16:30 終了後懇親会同会場
その他の活動	・常任理事会(年4回程度) ・同窓会通信を配信(毎月5日前後) ・他支部との交流 7月19日 福島県中央支部総会 11時～ 中国飯店精華苑 8月30日 山形県支部総会 17時～ メトロポリタン山形 9月5日 新潟中央支部総会 19時～ 会場未定 9月6日 秋田支部総会 会場、時間未定 栃木支部、長野県支部、長岡圏域支部、群馬県支部は 昨年総会に参加 ・本部行事 4月19日 第1回 本部常任理事会・理事会・総会 開催 新潟グランドホテル 石井(支部長代理 として)成田、山崎、石黒 7月6日 第2回 本部常任理事会・理事会・総会 新潟東映ホテル ・全学首都圏同窓会総会(理学部幹事) 10月26日 東京新潟県人会館

●令和6年度 事業報告

	事業計画
5月11日(土)	第1回理事会 17名(WEB1名含む)参加 会場：東京新潟県人会館 懇親会：吉池
5月21日(火)	第20回 青松芝楽会 11名参加 藤ヶ谷カントリークラブ
6月9日(日)	第95回 青松ウォーキング 9名参加 若洲ゴルフリンクス→若洲海浜公園→ 東京ゲートブリッジ→若洲キャンプ場
6月29日(土)	第24回 総会 47名+WEB5名参加 会場：東京新潟県人会館 懇親会：上野市場
9月22日(日)	第96回 青松ウォーキング 6名参加 柴崎体育館駅→根川緑道→河川敷公園→国立市古民家→ 谷保天満宮
10月下旬	青松38号発行 2030部 内容充実させ4頁から6頁に
10月26日(土)	第11回 首都圏五十嵐会 21名参加 会場：新宿エルタワー
11月24日(日)	第2回理事会 会場：東京新潟県人会館 懇親会：同会場
1月11日(土)	第97回 青松ウォーキング 11名参加 雄司ヶ谷霊園→肥後細川庭園、 甘泉園公園→早稲田大学キャンパス
その他の活動	常任理事会 6/4 WEB、7/30 リアル、9/23 WEB 同窓会通信を配信(毎月5日前後) 他支部との交流 6/22(土) 栃木県支部総会 成田出席 7/19(金) 長岡圏域支部総会 加澤出席 7/20(土) 長野県支部総会 石井出席 9/14(土) 群馬支部総会 加澤出席 本部常任理事会 4/20 成田代理出席 7/6 加澤出席 11/16 加澤出席 新潟大学75周年記念事業 10/19(土) ANAクラウンズにて 加澤、石井、成田出席

●令和6年度事業決算(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

《収入の部》

項目	予算額	決算額	摘要	増減
前年度繰越金	866,172	866,172	前年度末現預金合計額	0
本部助成金	1,200,000	1,200,000		0
年会費	300,000	294,000	郵貯:237名、QR:39名、その他:18名	-6,000
参加費	500,000	357,000	当日徴収額	-143,000
預金利子	3	56	通常貯金金利上昇(0.001%⇒0.1%)	53
合計	2,866,175	2,717,228		-148,947

《支出の部》

項目	予算額	決算額	摘要	増減
支部会報発行費	550,000	569,790	印刷費192千円、会費払込票48千円、 郵送費等330千円	-19,790
年次総会関係費	850,000	694,541	開催案内作成郵送377千円、 会議費317千円等	155,459
若手組織化、 同好会事業費	340,000	372,479	五十嵐会302千円、同好会等34千円、 支部間交流32千円	-32,479
理事会関係費	380,000	251,772	会議室79千円、会議費173千円	128,228
事務経費等	746,175	129,017	らくるる年会費45千円、 振込手数料42千円等	617,158
次期繰越金	0	699,629		-699,629
合計	2,866,175	2,717,228		148,947

令和6年度会計報告での収入は、2,717千円となり、予算比では149千円の収入不足でしたが、期中にて新たな会費納入方法(QR方



令和6年度会計報告と
令和7年度予算について

会計担当理事
佐々木 寛
(平成4年法卒)

式)を追加したこともあり、年会費収入は前年比増加となりました。一方、支出は3回の支部間交流やHP作成費用等新たな事業を導入し、収入と同額にて決算報告が承認されました。

これを受けまして令和7年度予算の収入は年会費収入の伸びを想定し、収入合計は2,800千円といたしました。一方、支出は支部間交流

●令和7年度事業予算 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

《収入の部》

(単位:円)

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	699,629	
本部助成金	1,200,000	
年会費	400,000	会費 300 → 400 名を目標
参加費	500,000	総会・理事会等参加費 延べ115人×4,000円
預金利子	500	
合 計	2,800,129	

《支出の部》

項目	予算額	摘要
支部会報発行費	600,000	会報印刷費 220 千円、会報発送作業費 380 千円
年次総会関係費	700,000	会議室 50 千円、資料等作成費 200 千円、 発送・作業費 350 千円等
理事会関係費	394,000	会議室 50 千円、会議費 300 千円等
若手組織化・同窓会事業費等	376,000	五十嵐会 130 千円、同好会 76 千円、 支部間交流 100 千円等
事務経費等	200,000	HP 充実費用 100 千円、らくうる年会費 40 千円、 振込手数料等
次期繰越金	530,129	
合 計	2,800,129	

費の増額、若手交流の対策費及びHP充実費用を新たに計上し、収入合計と同額の支出合計額が承認されました。特に今年度は支部間交流を前年以上の回数を計画し、情報交換・連携体制の一層の強化をする方針としております。また、若手層にも受け入れられ易いQR方式でのクレジット決済による年会費の増加を見込んでおり、すでに従来納入の少なかった平成以降の卒業生による会費の納入

が増加しております。また、QR決済のHP機能を利用した情報発信、特に支部会報のデジタル化についても協議を開始していく方針です。この取り組みは、媒体のデジタル化にとどまらず、本支部の支出項目で大きな項目を占める郵送費や印刷費、作業費の大幅削減にもつながる取り組みとして、早急にはできませんが中長期的な課題として対応していく方針です。



理事会の再編について

事務局長

成田 浩

(昭和58年経済卒)

本年、理事会の再編を実施いたしました。

再編前は55名の名を連ねておりましたが、連絡不通、返信の無いあるいは数年参加されない理事も多く、再任の意

向を確認した結果、健康上等諸般の事情での退任者もおられ、最終的には36名の理事会としてスタートしました。

ご退任の理事の方におかれましては、今まで長い間理事としてご協力いただきましてありがとうございます。

引き続き首都圏支部へご協力いただきますようお願いいたします。

また、新たに加入していた方々も6名にのぼり、若い方の比率も増えて、フレッシュな理事会として活発に行動していくかと思っております。

皆様どうぞ新理事会をよろしくお願いいたします。

退任のご挨拶

加澤 正樹

(昭和48年法卒)

首都圏支部支部長を6年間務めました。この度支部長を退任させていただきました。

就任した翌年にコロナ禍が始まり、いきなり活動停止状態となるアクシデントに見舞われました。何とか活動を再開した年の総会参加者は僅か30名ほどという状況で、活発な活動を続けて来た首都圏支部もこれで終わりかと不安でした。

東京にいては何もできない

ので南魚沼市の別宅に生活の拠点を移し、長岡市内の弁護士事務所での仕事を始めましたが、メールとZOOMという便利な通信手段を手に入れたおかげで何とか支部長職を続けることができました。

機関紙青松の発行は年1回に減りましたが、同窓会通信は主筆会員の病氣離脱という危機はありましたが、若手会員の参加により発信を継続でき、首都圏支部は生きていくぞというメッセージを送り続けることができたことも大きな励みでした。

支部の幹部役員も若手に入れ替わり、総会の参加者数もここ2年増加傾向にあり、活気を取り戻して次の世代に引き継ぐことに今は安堵を感じています。

支部活動に参加して約15年になりますが、この間、首都圏に住む多くの先輩・後輩と知り合い、助けていただき、新潟大学の卒業生であることに改めて誇りを持ちました。現在体調がすぐれませんが、新卒の自宅の居住権は確保しているのので主要な行事には上京して顔を出したいと思っています。

暖かいご支援ありがとうございます。



新理事就任の挨拶

吉住 靖子
(旧姓 薄井)

(平成5年法卒)

このたび理事を拝命いたしました。微力ではございますが同窓会活動に尽力してまいりますので、ご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大学卒業後は地元栃木県で就職・結婚・出産をし、配偶者の仕事の都合により首都圏に住むことになりました。現在は、行政書士事務所に勤務し、業務に励んでおります。キャリアに迷いがあつた折、首都圏支部の「五十嵐会」に参加したことが転機となりました。各分野でご活躍される同窓の皆様との交流を通じて、自身の進むべき道を見出すことができました。初めての参加には躊躇もありましたが、一歩踏み出したことで、世代や職業を超えたつながりの魅力を実感いたしました。同窓会は、学生時代を懐かしむ場であると同時に、人生観を深める貴重な機会であると思っています。

首都圏支部では「総会」「五十嵐会」「青松ウォーキング」「青松芝楽会」などの多

様な活動が行われています。参加を迷われている方がいましたら、ぜひ一歩を踏み出して参加してみてください。きっと新たな出会いや気づきが得られることと思います。

これまで同窓会活動を支えてこられた皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の同窓会のさらなる発展を願います。活動に取り組んでまいります。

青松芝楽会 第21回記念大会実施報告



柿沼 寛
(昭和46年経済卒)

昨年10月に青松芝楽会の幹事を私達同期3名(昭和46年経済卒 堀敏雄さん近藤次夫さん)で引き継ぎました。21回青松芝楽会を今年5月28日に幹事として初めての大会を千葉県藤ヶ谷カントリークラブで開催させて頂きました。

16名4組の参加を期待していましたが約半分の7名2組で実施しました。天候にも恵まれゴルフプレー中や昼食での会話、更にプレー後のパーティでの歓談で学生時代の思い出や現況の情報交換でリフレッシュが出来ました。ゴルフは老若男女誰でも出来る



スポーツだと言われています。不思議なスポーツで18ホール1ラウンドに費やす時間は5〜6時間のうち、ボールを打っている時間は20分もないと思います。残りの時間は移動と同伴者との会話です。従ってカートを利用して数歩は歩く事になりますので健康維持・向上に役立つと思います。私事ですすが打ち放しの練習は技術向上と健康に良いと信じ可能な限り練習場へ通っています。自己流で思い通りに狙ったボールが打てませんが試行錯誤を続けながら汗を流してクラブを振っています。たまに思い通りにボールが打てると気分が爽快になります。昨年までは河川での練習場を利用していましたが今年からは異常高温もあり冷房設備のある練習場に変

えました。大分体感温度が違います。約50年前に勤務先の同僚に誘われてゴルフを始め以来、多くの方々と共にグリーン上での出会いと19番ホールを楽しんで来ましたが数年前からゴルフ仲間が病気や体調不良で徐々に少なくなりコースへ出る機会が減っていることが残念です。芝楽会でも参加人数が年々高齢化や体調不良で減少傾向です。芝楽会の継続さらなる発展を目指して若い方や初めての方の参加を期待します。ゴルフ好きなOB/OGの方をご紹介します。頂ければ幸いです。今秋も日時、場所は未定ですが芝楽会を開催する予定です。

青松ウォーキング報告

石黒 清
(昭和41年経済卒)

青松ウォーキングを4月12日(土)に実施しました。

今回は、両国から浅草まで隅田川両岸に沿ってよく整備された隅田川親水テラスをお喋りを楽しみながらのんびり歩きました。明暦3年、江戸史上最悪の惨事となった「振袖火事」の犠牲者を弔う回向院をお参りした後、隅田川沿いに歩き、相撲や花火など地域にちなんだタペストリーが



隅田川テラスギャラリーで

並ぶ「隅田川テラスギャラリー」で記念撮影。川沿いに地域住民がボランティアで手入れしている花壇を楽しみながら隅田川歩きを楽しみました。途中厩橋を渡って対岸に、外国人観光客で賑わうパングイ本社前に寄り道してウルトランと記念撮影。最後は浅草駅ととうきょうスカイツリー駅を結ぶ東武スカイツリーラインの高架下にできた「すみだリバーウォーク」を渡って隅田公園内にある「東京ミズマチ」でお昼にしました。

20年前から始めた青松ウォーキングですが、同窓生ご夫婦の参加や他学部からの参加もあり同窓生同士の親睦、交流を超えて続けてきました。次回で99回目になります。次回は9月上旬に計画し

ていたのですが、今年の関東はまるで亜熱帯化したようで高齢者には危険な暑さが続いています。次回は少し夏の暑さが和らぐであろう10月中旬を考えています。

福島県中央支部交流報告



藤島 英之
(平成13年法卒)

令和七年度の事業として計画されている「支部間交流」の一環として、福島県中央支部総会へ参加した。本稿では、雑感を交えて報告する。

●交流先情報 福島県中央支部第九回総会／2025年7月19日午前11時開始／福島市内・中国飯店精華苑にて

●経緯 首都圏支部総会にて、事務局長より参加の打診があった。いくら祖国とはいえ、私のような若輩ではお役に立てないと思い、生返事です。その場をしのいだり、時が過ぎ、改めて事務局長よりメールにて打診があった。その文面には次の一文が加えられていた。「福島に参加できないようであれば、他の支部への参加をご検討ください」なるほど。福島でお願いします。

●福島県中央支部の様子 参加者は約25名程度で、30代と



思しき若手が6名程度参加していた。比率的に若年層が多い印象である。総会自体は議決と報告のみで30分で終了し、その場で懇親会へ移行した。来賓は松井人文学部長、古川原同窓会本部事務局長、支部間交流として会津支部から1名に加え筆者。支部間交流は良い取り組みなので、機会を増やしていきたいとのこと(支部長談)。

●所感 総会しかりその他のイベントにも人がなかなか集まらず、なにか手を打たねばならないという認識は共通にあるよう。交流としては首都圏支部の取り組みなどを紹介したほか、祖国ということもあり、地元の話題で会話もはずんだ。懇親会終了後も若手との人脈づくりもできた。

●気づきを得たこと

・個人名義の名刺作成 同窓会などの私的な交流においても、宮仕えであれば勤務先の名刺を使用する風潮であろうが、現代のコンプライアンスに準拠し、使い分けるべきであろうと考えた。具体的には、卒年や所属支部を主体とし、勤務先は社名や部署のみ、連絡先は私的なものを表記した名刺を作成した。レイアウトが選択でき、低価格で数日以内に納品される名刺作成サ-

ビスが普及した賜物である。・電子の領収書 移動に使ったJ-R 東日本には「えきねっと」なるチケット発注サイトがある。領収書は後日PDFで取得可能で、改正された電子帳簿保存法に鑑み、この方法を一般化するのが良いと考える。

法学部賢人会議報告



山岡 克則
(平成11年法卒)

今般、令和7年7月1日に新潟大学法学部賢人会議に登壇させていただく機会を頂きました。「賢人」を冠する講義名に引け目を感じつつも、部活、ゼミ、留学など様々な形でお世話になった大学へ恩返しできる数少ない機会と捉え、今回お受けさせていただきました事に致しました。

この日の新潟は小雨ばらつく曇り空。6月から早くも猛暑となった東京と比べ、少しばかり涼しく過ごしやすいく初夏の陽気でした。新しくなった大学キャンパス正門は、私にはどこかよそよそしく、良い年のおじさんが不審者に間違われまいだろうかと思案しながら、綺麗に舗装



された歩道を学生さん達に紛れ恐れ歩いていた。それでも、法文棟前まで来ると、そこだけは昔からの雰囲気そのまま、安堵感に包まれました。

今回、受講生の皆さんへは、①私自身の学生時代・社会人生活からの経験談、②私が銀行員として携わってきたプロジェクトファイナンス業務、③先輩からのメッセージの3点をお伝えしてきました。

午後一番の長時間講義で、眠くなる学生さんが続出した。どうしようか一抹の不安もありましたが、始めてみると多くの皆さんが真剣な眼差しでこちらに耳を傾けてくださり、私も背筋が伸びる思いで話を続けさせていただきました。

講義の中で、会社法ゼミ恩

グループラインにご参加ください！

首都圏支部の同窓生が参加できるLINEのグループに参加しませんか。

気軽に新潟や新潟大学に関する情報を交換したり、同窓会の交流会や懇親会の情報も得られますので、奮ってご参加ください！

■参加方法

- ①QRコードを読み込み、タップする
- ②表示された画面にある「参加」をタップする

- ・投稿する際には、毎回冒頭に「卒年・学部・お名前」を書いてください。
- ・初めて参加される際には簡単に自己紹介もお願いします。



ID:miraichallenge

＜お願い＞リンクを投稿する際は、リンクだけを送信するのではなくコメントも是非併せてお願いします。
上記とは関係のない内容は迷惑になりますので投稿しないでください。

※ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

■投稿可能な内容

- ・新潟大学、同窓会活動に関する内容（昔話もちろんOK！）
- ・新潟に関する内容（例：観光や食の情報、スポーツの情報、テレビ番組や動画、書籍、新聞記事の紹介など）
- ・ご自身のお仕事やビジネス、活動のお話で、同窓生に情報を提供して交流を図りたい内容や、知恵を借りたいもしくは支援を受けたい内容（例：展示会の告知、経営している会社やお店の紹介、クラウドファンディング協力依頼など）
- ・同窓会本部や首都圏支部からのご連絡

師の故小島康裕先生のエピソードを一つ紹介させていたいただきました。旧民法102条に「代理人ハ能力者タルコトヲ要セス」とあります。代理人ハ意思表示さえできれば、法律上の行為能力まで求めないとする条文で、一般的に親が子ども（未成年者）に頼むお使いでも売買契約は有効に成立すると文脈で説明されます。でも先生は違う。古代ローマ時代、ローマ人は、奴隷で行為能力を持たない有能な外国人に法律行為を任せが必要があった。この条文はその時代からの名残だということです。きつと先生はこの話

を通じ、「通説をただ鵜呑みにするな、自分で調べてよく考えよ」そう学生達に伝えなかったのだろうと私は理解しています。

講義の後半は、受講生からの質疑に応答するセッションでした。銀行業務、就職関連の相談はもちろん、海外生活、留学に関するもの、生き方、物事の判断軸といったもので様々な質問をいただきました。皆さんの直球で真剣な質問の数々に、私もできるだけ真正面からお答えさせていたできました。

昨今、Z世代などと一括りにされがちな若者世代ですが、質問や感想から見えてくるのは、決して内向き志向という訳ではなく、それぞれ挑戦への強い思いを抱えつつ、どう進むべきかを迷い考え続けている姿でした。私からのメッセージが、何らかの気づきとなり、背中を押すきっかけになってくれたようであれば幸いです。

私が学生の頃と比べると、ずいぶん課題多き時代になってしまいました。その中でもきつと逞しく成長し活躍してくれる、そう思わせる力強さを学生の皆さんから感じました。そのうえで、講義をした私自身も、人生100

年時代を生きるおじさん世代として、若い世代に負けないよう学び続けなければならぬ。そんな気持ちにさせられました。

最後に、今回このような機会を頂いた事に感謝申し上げます。特に関心があります。特に、ご紹介くださった小島ゼミ先輩のご指導いただいた岡さん、講義開催日までずっとサポートくださった河野先生、そして忙しい中当日お会いくださった上村法学部長、田巻副学長に深く御礼申し上げます。

メールマガジン「同窓会通信」を発行しています

首都圏支部では、毎月5日ごろにメールマガジンを発行しています。主な内容は次の通りです。

- ★首都圏支部事務局からのお知らせ
- ★同窓会の企画のご案内（ウォーキング、ゴルフ、講演会、交流会、懇親会など）
- ★大学や同窓会本部に係るニュース、HPやFacebookなどの記事の紹介
- ★今どきの新潟のニュースや

話題

★活躍する同窓生のご紹介など

メールマガジンを受信希望の方は、下記の事務局のアドレスまでお知らせください。また、記事や投稿も広く募集しておりますので、情報がありましたら同アドレスまでお願いします。

記事の送付先（事務局）：
seishoshutoken@gmail.com

メールマガジンは300号を迎えます

メールマガジンは来年の2月号で記念すべき第300号になる予定です。そこで、みなさまからのメールマガジンに関するエッセイや、同窓会活動についての思い、近況報告などの記事を大募集致します。文字数は短くても構いませんので、特に理事のみなさんはご執筆いただきますようお願いいたします。卒年・学部・お名前を明記の上、事務局のメールアドレスにお寄せください。投稿の受付締め切りは2026年1月30日です。お待ちしております。